



NK/NAPA、買収経緯や今後の展開を説明



今後の展開を説明するNKとNAPAの幹部

船級と設計システム会社がタッグ

NK/NAPA、買収経緯や今後の展開を説明

日本海事協会(NK)とフィンランドの設計・運航システム会社NAPAの幹部が8日、記者団と懇談し、NKによるNAPA買収の経緯や今後の展開を説明した。

買収を通じ、NAPAは従来は2次元が主流となっている設計の初期段階(上流設計)の設計システムに、3次元設計を取り入れたシステム「NAPA Steel」と、NKと共同開発した最適運航支援システム「Class NK-NAPA Green」に重点を置いてシステムの機能向上に努めていく方針を説明した。

NKは買収の背景について、国際条約や船級規則の強化を挙げ、設計プロセスにおいてソフトウェアの使用が不可欠となっていることを挙げた。買収に先立ち、NK以外にも国内外の船用機器メーカーや船級から買収提案があったことをNAPAのヨハ社長(Juha Heikinheimo)が明かした上で、設計システムを規則確認ソフトに合致させる開発で10年に及ぶパートナーシップを結んでいたNKを選んだと述べた。海事産業全体の発展への貢献を目指す、両者のポリシーが一致したことも背景と説明した。

NKは設計ツールの選択はあくまでユーザーの自由であり、買収はNAPAソフトのユーザーへの強制化にはならない点や、NAPAは他船級船へのサービス提供を継続していくこと、情報の機密性も従来どおり確保していくことを強調。その上で、NAPAとともに船社や造船所に一層充実した設計支援サービスと、運航支援サービスを提供していく方針を示した。また、買収により設計や運航支援のツールとなるシステムを開発するNAPAの事業をバックアップしていく方針。同社の現在の取締役会5人のうち、3人をNKが占めるようになることも明らかにした。

「Class NK-NAPA Green」は本船の性能を、実運航のビックデータ解析による自己学習機能も使って把握した上で、燃料消費料を削減した最適な運航計画を支援するシステム。4～6%の燃費削減効果を確認している。

記事一覧に戻る

この記事を印刷する